

市長コラム

てっちゃんのひとりごと

特別編vol.2

荻野吟子、郷土の誇りを全国へ

「ゆかりの地を訪ねて　北海道編」

昨年６月、北海道のせたな町、今金町を訪ね、吟子さんゆかりの場所を歩いてまいりました。少し、吟子さんの顕彰の歴史について説明したいと思います。

吟子さんは、大正２年（1913 年）、62 歳でその生涯を閉じました。没後間もない大正４年（1915 年）には、生誕地・旧秦村の人々により「秦村人物誌」でいち早くその偉業が記録されたものの、戦後「日本で最初の公許女性医師」という先駆者の存在は埋もれてしまいます。



今金町長さん、せたな町長さん(当時)と

その記憶を拾い上げたのは北海道でした。昭和 42 年（1967 年）、北海道開道 100 年を記念して、せたな町に「荻野吟子顕彰碑」が建立されます。

吟子さんは、夫の志方之善さんとともに、今金町でキリスト教徒だけの理想郷づくりを目指しましたが、志半ばで隣町であるせたな町に移り住みました。そこでは、医療活動だけでなく、女性たちへ衛生知識や災害時の対処法を教え、さらに日曜学校を開いて子どもたちの教育に力を注ぎました。



両町ゆかりの場所を案内していただきました。

吟子さんが北海道に遺したものは、医療の枠を超えた、地域の福祉や教育への貢献でした。その功績の記憶が地域に残っていたのです。

現在も、せたな町には「荻野吟子開業の跡」、今金町には「インマヌエルの丘発祥の碑」などが大切に守られており、吟子さんの不屈の歩みを今に伝えています。